

聖日礼拝説教要旨 【2012年11月25日】

「民を主に備える」

マラキ書 第4章5節～6節
ルカによる福音書 第1章5節～17節

説教 岡村 恒牧師

今日はキリスト教会の暦では1年の終りに当たる終末聖日です。なぜ終末聖日が1年の終わりかと言うと、私たちは世の終りを目の前に置いて考えるからです。代々の教会は世の終わりを考えながら収穫感謝をします。神の恵みを確認し、兄弟姉妹と分かち合います。礼拝の後、果物を持って問安します。礼拝で受けた恵みを分かち合います。一緒に喜ぶ、一緒に泣く、一緒に楽しむと言うことをします。これが、終末を待つキリスト者のあるべき姿だからです。

カルトと呼ばれる宗教団体は同じように終末のことを言います。そこで人々は、追い立てられるように残された日々を必死で握りしめながら過ごします。あるいは、もう全てが終わりだと考えて日常の生活を放棄してしまいます。しかしキリスト教会は違うのです。明日この世が終わるとしても、隣人と共に主を讃美し、証し、神に祈りつつ過ごします。終末聖日に収穫を感謝し、共に喜ぶということは、終末が本当の意味で終わりでないから実現している出来事です。

2,000年程前、ザカリヤと言う祭司がいました。くじを引いて当番に当たると、神殿に入って民全体の為に祈ってきた人です。彼には子供がないという個人的な課題もありました。当時は、子供のない家庭は神に見捨てられたものと思われました。ずっと祈り続けてきたと思います。そして、ほとんどあきらめていました。彼の祈りは、ユダヤ民族全体の祈りと重なっていました。長年にわたって救い主が来ないので。民は、祈り求めながら、ほとんどあきらめかけていたのではないのでしょうか。

あるときザカリヤが当番に当たって香をたいしているとき、主の使いが突然現れました。ザカリヤは恐れしました。神の方から触れて下さるとき、人は恐れます。人生が中断をされるからです。御使が彼に言いました、「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈りが聞き入れられたのだ。あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう。」

(13節) 神ご自身の計画を実現なさる。そのために、あなたと妻の人生全体をお使いになる。神がなさろうとすることに対して私たちははじめ驚き、そして拒絶をします。神の業を信じることを拒否してしまいます。

神様は、1人1人に丁寧に働きかけて、神がお定めになったステップを1つ1つ踏むようにして私たちに信仰を与えて下さいます。エリサベツ

とザカリヤの夫婦は、そのために用いられました。この日、ザカリヤの人生が変わりました。神の約束が、いよいよ実現し始めたと思ったからです。この私が神の救いの計画のど真ん中に位置付けられ、私たち夫婦に与えられる子供が、主の御用に用いられていく、と知ったのです。

ルカによる福音書に記されたクリスマスの物語では、高齢者が何人も登場します。待ち続けて絶望しかけていた高齢者が、赤ちゃんの主イエスを見て、もう満足だと言う場面が出てきます。心の底の絶望が深かろうと浅かろうと、心から神を待ち望んできたかどうかの程度にもかかわらず、神の救いの力は私たち1人1人に迫ってくるので、これは、誰でも味わうことができる経験なのです。

こうして私たちが神の計画と力を知っていくとき、私たちはザカリヤの様に恐れながら、不信仰なままで神の計画の真ただ中に自分自身を発見するようになります。やがてザカリヤは妻が妊娠したことを知ります。自分の親戚のマリヤが妊娠したことも知り、やがてマリヤから救い主が生まれることを知ります。深い恐れと喜びを味わったに違いないと思います。

整えられた民を主に備えると御使いは言いました。神に捧げるのは最も良い物でなければなりません。主なる神は主イエスの血を持って私たちに創り変え、聖い者と呼んで下さる。あの日、ザカリヤが聞いた神の約束も同じでした。

私たちの内に主なる神様を信じる信仰を与え、神様の子として創り変え、神様の前に立たせて下さい、と、神様の招きに答えたらよい。既に洗礼を受けた者は、振り返って神の備えの業がどれほど恵み深かったか思い知りましょう。心の中に目に見えぬ収穫物を1つ1つ思い浮かべて、主を讃美したら良いのです。

招かれ、応える手前で主の声を聴いている方は是非、一歩前に踏み出して、主に応えて下さい。『私をあなたの者として下さい。あなたが神であることを私の魂に刻み付け、その信仰を告白して歩ませて下さい。』そうお応えになって下さい。主はその応えを喜んで、私たちの祈りや思いを遥かに超える仕方で救いを与えて下さいます。

(記 説教要約奉仕者)